

令和6年度

3年次

シラバス

学習指導計画

滋賀県立瀬田工業高等学校 定時制課程

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	地理歴史	科 目	地理総合	学 年	類 型	単 位 数
				3	全員	2
学習の 目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。					
使用教科書	わたしたちの地理総合(教科書、二宮書店) コンパクト地理総合地図(地図帳、二宮書店)			副教材等	なし	
評 価	評 価 法			定期考査、プリント、小テスト、レポート、記述や発言の様子、学習に向かう行動観察		
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。		
		b	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	1	・地理総合を学ぶにあたって	・高校の地理学習の動機づけと以後の学習に必要な基本的な技能や学び方を理解する。	プリント	プリント	プリント
			第1章 地図とGISの活用		小テスト	小テスト	の記述や発言の様子
		2	1 節 地球上の世界 1,2 球面上での生活 3 世界地図でとらえる地球	球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。球面上の正しい方位や時差、図法によって異なる世界地図の特色を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。		ワークシート	行動観察
前期	4	3	2 節 国家の領域と領土問題 1 国家の領域と海洋の役割 2 日本の位置と領土問題	国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。			振り返りシート

学期	月	時数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前期	5	4	3 節 国内や国家間の結びつき 1 国家をこえた結びつき 2 観光による結びつき 3 交通・通信による結びつき 4 貿易・物流による結びつき	外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。	プリント 小テスト	プリント 小テスト ワークシート	プリントの記述や発言の様子 行動観察 振り返りシート
		3	4 節 日常生活のさまざまな地図 1 身の回りにあるさまざまな地図 2 地理情報システムのしくみと使い方	身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。地理情報の電子化について学習し、紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し、活用する。地球儀ソフトや地理院地図などの GIS ソフトウェアを利用して地理空間情報を扱い、表現する技能を養う。	前期中間考査	前期中間考査	
	7	9	第 2 章 生活文化の多様性と国際理解		プリント 小テスト	プリント 小テスト ワークシート	プリントの記述や発言の様子 行動観察 振り返りシート
			1 節 自然環境と生活文化 1 地球上の地形のなりたち 2,3 山地と平野/海岸部の生活 4 地球上の気候のなりたち 5 暑い気候 アフリカ 6 乾燥した気候 サウジアラビア・モンゴル 7 季節の違い 大陸の西岸と東岸 8 寒冷な気候 シベリア	世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形、それらの地形を活かした暮らしの特徴を学習し、写真や地形図によって具体的に読み取り、考察する技能を身につける。 世界的な視野から大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。			
		8	2 節 産業の発展と生活文化 1 農業の地域性 2 農業 南アジア 3 工業の地域性 4,5 経済成長 中国 6,7 工業化 タイ・ベトナム	世界の農業・工業・第 3 次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。また、アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を動的に捉え、主題図や写真などの資料を通して考察する。			
	9	10	3 節 言語・宗教と生活文化 1 世界の言語 2 世界の宗教 3 仏教圏の生活文化	世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。また、現代社会における言語・宗教の変容を動的に捉え、主題図や写真などの資料から考察する。世界の少数民族や少数言語、宗教対立、移民・難	前期末考査	前期末考査	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10		4 キリスト教圏の生活文化 5,6 イスラム圏の生活文化 7 世界の多民族・多文化社会 8 社会の形成 ラテンアメリカ 9 多文化社会 オーストラリア	民などの現代社会の諸課題を理解し、互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について議論し、考察する。	プリント 小テスト	プリント 小テスト ワークシート	プリントの記述や発言の様子 行動観察 振り返りシート
	11	3	4 節 グローバル化の進展と生活文化 1～3 地域統合 EU 4～6 グローバル化アメリカ	EUの統合による産業や生活文化への影響、そして統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸課題を理解し、ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容、EUと日本のつながりについて考察する。 アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりについて考察する。			
	12	7	第3章 地球的課題と国際協力		プリント 小テスト	プリント 小テスト ワークシート	プリントの記述や発言の様子 行動観察 振り返りシート
		6	2 節 居住・都市問題 1 世界の居住・都市問題 2 大都市 ロンドン・ニューヨーク 3 密集都市 メキシコシティ・ジャカルタ	都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに、人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判読する。また、途上国と先進国では異なる都市問題が発生していることを理解し、その構造的要因を考察する。都市問題を解決するための都市政策や科学技術の事例に触れながら、解決の方策を構想する。	後期中間 間考査	後期中間 間考査	
	1	5	3 節 資源・エネルギー問題 1 世界の資源・エネルギー 2 エネルギー資源の生産・消費と課題	エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し、主題図や統計資料をもとに資源の偏在性、有限性、そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。エネルギー資源の持続可能な利活用と安定供給を実現するために、化石燃料や再生可能エネルギーのメリットやデメリットを比較し、国際協力の必要性、日本とのつながりについて考察する。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	1		3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源 ロシア・オーストラリア・日本				
	2	4	4 節 地球環境問題 1 地球温暖化の現状と将来 2 熱帯林の減少 アマゾン・東南アジア 3 砂漠化の進行 アラル海	地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模で起こっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。地球環境を守り持続可能な発展を実現するためには、国際的な協力体制が必要なだけでなく、その背後にある政治・経済的な課題解決も求められることを考察する。また、環境問題と自分自身とのつながりを意識し、SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する			
		5	第4章 生活圏の諸課題		プリント	プリント	プリント
			1 節 自然環境と防災 1 日本の地形・気候と生活 2～4 風水害/火山/地震・津波と防災 5 都市型災害と防災 6 防災・減災への心構え	日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。また、日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することを世界的な視野から捉え、その要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。新旧地形図やハザードマップなどを活用し、自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身につける。	小テスト	小テスト ワークシート	の記述 や発言 の様子 行動観察 振り返りシート
	3	5	2 節 持続可能な地域づくり 1 地域調査の実施手順と方法 2～4 地域調査	生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し、身近な地域の魅力やかかえている課題を見だし、調査を踏まえてその解決策を考察する。地域調査の一連の手順を理解し、さまざまな調査方法を活用する。調査結果や統計ツール、新旧地形図やデジタル地図、各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想する。	後期末 考查	後期末 考查	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・授業の進め方
教科書の内容にそって進んでいきます。
 - ・授業では
学習項目の各単元に関心を持ち、積極的に取り組んでください。
授業ごとのプリントやワークシートなどは毎回しっかり整理し、提出してください。
世界各地で起こっている地球的課題に対してどのような国際協力が必要か、自分たちにできることは何か考えてください。
 - ・学習に向けて
教科書を丁寧に読んでください。日本について、世界について、多様な生活文化を学びましょう。そして「地理総合」を通じて、これからの世界、日本を知る、未来を見据えた学習を進めてください。
 - ・持ち物
教科書、地図帳、ファイル、タブレット、筆記用具
- ※学習項目等は随時見直し、変更する場合があります。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	理科	科 目	化学基礎	学 年	類 型	単 位 数
				3	全員	2
学習の 目標	物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。					
使用教科書	新編化学基礎（東京書籍）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		定期考査、小テスト、レポート、ワークシート、振り返りシート等			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。		
		b	思考・判断・表現	物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	2	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か	- 身のまわりの物や製品が何でできているか、なぜその物質が使われているかを考え、発表する。 - 身のまわりの製品には、その物質の性質がうまく利用されていることに気づく。 2種類の物質を区別する方法を考え、物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。	ワークシート	ワークシート	ワークシート 行動観察
		3	2 章 物質の成分と構成元素 1 節 物質の成分	- 純物質と混合物の性質を理解する。 - 混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。 - 物質の溶解度は温度によって変化することを理解する。 - 混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を選択できる。	ワークシート	ワークシート 実験レポート	ワークシート 実験レポート
		3	2 節 物質の構成元素	- 物質は元素からつくられていることに気づく。 - 純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、いくつかの元素には同素体があることを知る。 - 元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。	ワークシート 小テスト	ワークシート	ワークシート 行動観察
	5	2	3 節 物質の三態	- 物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 - 状態変化によって物質の体積がどのように変化するか確認し、粒子のふるまいと関係について考察する。 - 物質が自然に広がっていく現象を拡散ということ、また、その現象は熱運動によることを理解する。 - 物理変化と化学変化、状態変化の違いを理解する。 - 状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。	ワークシート	ワークシート 実験レポート	ワークシート 実験レポート
		2	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 1 節 原子の構造	- 物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 - 原子の大きさや構造について知る。 - 原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 - 原子番号は、原子に含まれる陽子の数であることを知る。 - 質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。	ワークシート 小テスト	ワークシート	ワークシート 行動観察

前期				・放射性同位体が年代測定や医療などに使われていることを知る。			
		3	2節 電子配置と周期表	・原子核の周囲に電子殻があることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から極めて安定な電子配置に気づく。 ・最外殻電子と価電子を知る。また貴ガスの場合はこれらの示しているものが違うことを知る。 ・電子配置は原子番号順に規則的に変化することを理解する。 ・アルカリ金属としてのナトリウムの性質を知る。 ・元素の性質の規則性について考察する。	ワークシート 中間考査	ワークシート 実験レポート 中間考査	ワークシート 実験レポート
	6	4	2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づき、典型元素の陽性と陰性について理解する。 ・イオン結合の形成について理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を知る。	ワークシート 小テスト	ワークシート	ワークシート 行動観察
		5	2節 分子と共有結合	・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・身近な高分子化合物の構造について知る。 ・配位結合の形成を理解し、錯イオンについて知る。 ・極性分子と無極性分子について理解する。 ・分子の性質と溶解性の違いを確認する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。	ワークシート	ワークシート 実験レポート	ワークシート 実験レポート
	7	3	3節 金属と金属結合	・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・身近に使われている金属および合金の成分、それらの用途や性質を知る。	ワークシート 小テスト	ワークシート	ワークシート 行動観察
		2	4節 化学結合と物質の分類	・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。	ワークシート	ワークシート	ワークシート 振り返り
	9	2	3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量	・原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 ・身近な粒の質量測定から相対質量を考える。 ・天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。	ワークシート 小テスト	ワークシート	ワークシート 行動観察
		2	2節 物質量	・粒子の数に基づく量の表し方が物質量であることを知る。 ・物質量と原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・実験観察を通して、アボガドロ数を考える。 ・物質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量、空気平均分子量について理解する。 ・物質量を中心とした量的関係を理解する。	ワークシート	ワークシート 実験レポート	ワークシート 実験レポート
		2	3節 溶液の濃度	・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。	ワークシート 期末考査	ワークシート 期末考査	ワークシート

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	2	4 節 化学反応の 表し方	・ 化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。	ワーク シート	ワーク シート	ワーク シート
		3	5 節 化学反応の 表す量的関係	・ 化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・ 銅の酸化の実験から、質量の関係を見いだして考察する。 ・ 炭酸カルシウムと塩酸の実験から、反応に関わる物質の量が化学反応式の係数の比を表していることを見いだして理解する。化学反応の表す量的関係について発表する。 ・ マグネシウムリボンと塩酸の実験について、化学反応式を用いるマグネシウムリボンの質量と発生する水素の体積との関係を推測する。実験による測定値と比較し考察する。 ・ 化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。	ワーク シート	ワーク シート 実験レ ポート	ワーク シート 実験レ ポート 振り返り
		3	2 章 酸と塩基 1 節 酸と塩基	・ 酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・ アレーニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ プレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・ 酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。	ワーク シート 小テスト	ワーク シート	ワーク シート 行動観 察
	11	3	2 節 水素イオン と pH	・ 水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・ 水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pHでも表せることを理解する。 ・ pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを知る。 ・ 実験観察を通して、身近な物質のpHや希釈した水溶液のpHの変化を比較し考える。	ワーク シート	ワーク シート 実験レ ポート	ワーク シート 実験レ ポート
		3	3 節 中和反応と 塩の生成	・ 酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・ 酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・ 実験観察を通して、塩の水溶液のpHを測定する。その塩をつくるもとになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。	ワーク シート 小テスト	ワーク シート	ワーク シート 行動観 察
		2	4 節 中和滴定	・ 中和の条件は、酸から生じる H^+ の物質と塩基から生じる OH^- の物質が等しくなることだとわかる。 ・ 中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・ 実験観察を通して、溶液の調整方法を理解する。 ・ 標準溶液に用いられる試薬のもつ特徴を知る。 ・ 実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。 ・ 酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。	ワーク シート	ワーク シート 実験レ ポート	ワーク シート 実験レ ポート 振り返り

後 期	12	5	3章 酸化還元反 応 1節 酸化と還元	・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。	ワーク シート 中間考 査	ワーク シート 中間考 査	ワーク シート 行動観 察
	1	5	2節 酸化剤と還 元剤	・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・実験観察を通して酸化剤としてはたらく物質は、より強い酸化剤との反応では還元剤となることを知る。 ・酸化還元滴定に用いる器具の使い方がわかり、実験操作を理解する。	ワーク シート	ワーク シート 実験レ ポート	ワーク シート 実験レ ポート
	2	3	3節 金属の酸化 還元反応	・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。	ワーク シート 小テスト	ワーク シート	ワーク シート 行動観 察
		3	4節 酸化還元反 応の応用	・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・ダニエル電池のしくみを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	ワーク シート	ワーク シート 実験レ ポート	ワーク シート 実験レ ポート
	3	3	終章 化学が拓く 世界	・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。	期末考 査	期末考 査	振り返 り

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<授業の進め方>

- ・教科書を基本に授業を進めていきます。
- ・補助教材としてプリントやタブレット端末を用いて学習をしていきます。
- ・単元によって実験を行う予定です。

<アドバイス>

- ・常日頃から周りに関心を持つように心がけましょう。
- ・分からないときや、疑問に思うことがあれば、教科担当に相談しましょう。

<その他>

- ・学習項目は前後することや、内容の変更をすることがあります。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	保健体育		科 目	体 育	学 年	類 型	単 位 数
					3	全員	3
学習の 目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。						
使用教科書	保体701 現代高等保健体育（大修館）				副教材等	なし	
評 価	評 価 法			・実技（含運営・審判法）・提出課題・振り返りシート（毎時） ・小テスト（理論）・パフォーマンス課題（スピーチ発表・プレゼンテーション） ・学習に向かう行動観察により評価します。			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	・運動の合理的・計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。			
		b	思考・判断・表現	・自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや、目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的・計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	4	3	体育理論	豊かなスポーツライフの設計 ・生涯スポーツの見方・考え方	提 出 課 題	提 出 課 題	行 動 観 察
					小テスト	小テスト	
	5	6	体づくり運動	体ほぐしの運動 ・手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と主体的に関わり合うこと。	実 技	実 技	実 技
		6	陸上競技	短距離走・投てき(砲丸投げ) ・短距離走では中間走の高いスピードを維持して早く走ること。 ・投てきでは立ち投げなどから砲丸を突き出して投げること。	行 動 観 察	パフォー マンス 課 題	振 り 返 り シ ー ト
		6	【選択種目】 ・器械運動	マット運動・跳び箱運動 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと。 ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと。			
		21	・バスケットボール 【ゴール型】 ・バドミントン 【ネット型】 ・ダンス から選択	球技(ゴール型):バスケットボール ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防すること。 球技(ネット型):バドミントン ・状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 ダンス:現代的なリズムのダンス ・リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりをつけて仲間と対応したりして踊ること。			
	7	3	体育理論	豊かなスポーツライフの設計 ・ライフスタイルに応じたスポーツ	提 出 課 題	提 出 課 題	行 動 観 察
					小テスト	小テスト	
	9	6	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 ・実生活に生かす運動の計画では、自己の狙いに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てて取り組むこと。	実技 行 動 観 察	実技 行 動 観 察 パフォー マンス 課 題	実技 行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	29	【選択種目】 ・バレーボール 【ネット型】 ・テニス 【ネット型】 ・柔道 から選択	球技(ネット型):バレーボール ・状況に応じたボール操作や仲間との連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 球技(ネット型):テニス ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 武道:柔道 ・相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすること。	実技 行 動 観 察	実技 行 動 観 察 パフォー マンス 課 題	実技 行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト
	11						
	12	3	体育理論	豊かなスポーツライフの設計 ・スポーツを推進する取り組み ・豊かなスポーツライフの創造	提 出 課 題 小テスト	提 出 課 題 小テスト	行 動 観 察
	1	22	選択種目 ・サッカー 【ゴール型】 ・卓球 【ネット型】 から選択	球技(ゴール型):サッカー(フットサル) ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防すること。 球技(ネット型):卓球 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。	実技 行 動 観 察	実技 行 動 観 察 パフォー マンス 課 題	実技 行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・「体育」は必修科目で、1年次で2単位、2年次で2単位、3年次で3単位、合計7単位履修します。
- ・実技種目については、前項の学習内容を参考にしてください。
- ・「水泳」については夜間定時制であることを考え、実施していません。
- ・体操服は自由ですが、運動のできる服装・靴（体育館シューズは学校指定）で授業を受けてください。
- ・諸事情により実技ができない人は、教科担当まで申し出てください。

※学習項目等は随時見直し、変更する場合があります。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	芸 術		科 目	美術Ⅰ	学 年	類 型	単 位 数
					3	全 員	2
学習の 目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指す。						
使用教科書	光村図書 美術Ⅰ				副教材等	なし	
評 価	評 価 法			作品、ワークシート、自己評価シート、授業への取り組み状況			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。			
		b	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を持とうとしている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（Ａ、Ｂ、Ｃの３段階）および評定（１～５の５段階）にまとめます。						

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	2	鑑賞 「オリエンテーション」	○「美術 I」の学習イメージを持ち、学習のルールや教材、教具の確認を行う。	・ワークシート	・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況
	5	6	表現/絵画 「身近なものを描く」	○身近なものを見つめなおし、その特徴や美しさをもとに鉛筆や水彩絵の具で表す。 ・身近なものを描くことに興味をもち、身近なものを見つめ感じ取った特徴や、ものに対する自分の思いなどから主題を考える。 ・主題をもとに、形や色、用具の使い方などの構想を練る。 ・構図や色などを工夫し、用具の特性を生かして制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。	・作品 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況
		2	鑑賞/絵画 「日本美術を味わう」	○日本美術を概観し、絵巻物や障壁画、水墨画、浮世絵など日本美術における絵画作品を鑑賞する ・構成の工夫や描写のユーモアや創造性などを感じ取り、日本美術の歴史や表現の特質について考え、見方や感じ方を深める。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心をもち、作品の見方や感じ方を深める。	・ワークシート	・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	6	8	表現/彫刻 「生命感を表す」	○身近な人や動物から感じ取った生命感を立体感や量感を意識して彫刻(塑像)で表す。 ・生命感を表した作品に関心を持ち、身近な人や動物などから感じ取った生命感から主題を考える。 ・主題をもとに、材料やポーズ、構図などの構想を練る。 ・材料や用具の特性を生かして制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。	・作品 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況
	7	2	鑑賞/デザイン 「建築のデザイン」	○公共の建物を鑑賞し、建築物のデザインが果たす役割や働きについて考えを深める。 ・建築のデザインに関心を持ち、デザインの目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、快適な生活にデザインが果たす役割や働きを感じ取る。 ・感じたことや、考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち作品の見方や感じ方を深める。	・ワークシート	・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況
	9	7	表現/デザイン 「紋様で飾る」	○日本や諸外国の紋様を鑑賞し、表現の工夫や生活とのかかわりを感じ取り、形や色を考えてデザインし、オリジナルの手ぬぐいに表現する。 ・日本や諸外国の紋様に関心を持ち、動植物やものの形や色の特徴などから主題を考える。 ・主題をもとに、形や色、厚生などの構想を練る。 ・形や色、材料や構成などを工夫して制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。	・作品 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況
		8	表現/デザイン 「学校をより良くするポスター制作」	○ポスターの目的を理解し、伝達の効果を考えてイラストレーションや文字を検討し、配置や配色を工夫して、SDGsをテーマとしたポスターを制作する。 ・メッセージを広く伝えるデザインに関心をもち、メッセージの内容や伝える相手などから主題を考える。 ・主題をもとに、配色や構成などの構想を練る。 ・形や色、構成などを工夫して制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。	・作品 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	2	鑑賞/映像メディア 「写真作品を味わう」	○写真作品を鑑賞し、写真表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考える。 ・写真という表現の特質や表現効果などを感じ取る。 ・作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取る。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品の見方や感じ方を深める。	・ワークシート	・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況
	11	8	表現/映像メディア 「コマ撮りアニメーション制作」	○アニメーションの原理について学び、光や視点などの視覚的な要素の働きやコマの動きの変化などについて考え、コマ撮りアニメーションを制作する。 ・アニメーションに関心を持ち、撮影方法による印象の違いやアニメーションならではの動きなどから主題を考える。 ・主題をもとに、形や色、光、構図、動きなどの構想を練る。 ・カメラやコンピュータ等の用具の特性を生かして制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。	・作品 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況
		7	表現/絵画 「墨で描く」	○墨による表現の豊かさを感じ取り、墨の特性を生かして作品を描く。 ・墨による多様な表現に関心を持ち、墨ならではの効果などから主題を考える。 ・主題をもとに、墨の特性を生かして構想を練る。 ・墨の表現や余白の活かし方などを工夫して制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。	・作品 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート	・自己評価シート ・授業の状況

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	12	8	表現/デザイン 「包むかたち、パ ッケージのデザ イン」	○包むものの形やイメージ、用いる場面などに着目し、包むもの の形状や強度、パッケージの目的を考え、美しく機能的なパッケ ージをデザインする。 ・パッケージのデザインに関心を持ち、包むものや使う目的などか ら主題を考える。 ・主題をもとに、形や色、材料、構造などの構想を練る。 ・形や色、材料、構造などを工夫し、見通しを持って制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。	・作品 ・ワー クシー ト	・作品 ・ワー クシー ト	・自己 評価シ ート ・授業 の状況
	2 3	10	表現/絵画 「自己を表す」	○自己の内面を見つめ、過去・現在・未来の自分の姿に思いをめぐらせ、絵の具の特性を活かしながら、気持ちや性格などの自分らしさを自画像で表現する。 ・自己を表すことに関心を持ち、自分を見つめ感じ取ったことから主題を考える。 ・主題をもとに、作品形態や表現方法、用具の使い方などの構想を練る。 ・形や色、材料などを工夫し、用具の特性を生かして制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。	・作品 ・ワー クシー ト	・作品 ・ワー クシー ト	・自己 評価シ ート ・授業 の状況

担当者からのメッセージ（学習方法など）

○授業内という限られた時間で、作品制作を行うには段取りが大切です。今自分がやるべきことは何かを考えて、準備から制作、後片付けまでの見通しを持てるようにしましょう。

○題材によっては、家庭で取り組むことが難しいものがあります。制作に遅れが出ないように休まずに授業に出席してください。

○授業で使用する道具や服装については、前もって授業内で連絡します。

○タブレット端末を使用した学習や制作があります。美術の授業でタブレット端末が使えるよう予め充電等の準備をしてください。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	職 業	科 目	職業一般	学 年	類 型	単 位 数
				3	全 員	2
学習の 目標	実務による勤労体験を積極的に評価することにより、働きながら学ぶ定時制生徒の学習負担軽減と就労意欲の高揚をはかり、併せて望ましい勤労観と職業観の育成をめざす。					
使用教科書	なし			副教材等	自主教材	
評 価	評 価 法		レポート、雇用先からの実務報告書（評価表） 職場訪問による雇用主との懇談および職場での勤労・実務の見学 必須条件：就業日数（時間）が192 日または 768 時間以上			
			評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	職業全般に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
	b	思考・判断・表現		将来自分が就きたい職業に従事するには、どのようにすればよいかということに意欲的に取り組み、実践的な態度を身につけている。		
	c	主体的に学習に取り組む態度		働くということにおいて関心を持ち、その充実・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め工夫し創造する能力を身につけている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	8	オリエンテーション	・職業一般について ・年間指導計画の作成 ・自己目標の設定 等	レポート	レポート	レポート
	5	8	講義① 「履歴書について、書き方」 演習 「レポート①」	・履歴書の基本 就職について、必要な履歴書の書き方を身につけさせる。 ・講義①についてレポートをまとめる。	レポート	レポート	レポート
	6	8	講義② 「面接について」 演習 「レポート②」	・面接の基本 第一印象の大切さ、服装や言葉遣い、髪型などについても理解させる。 ・講義②についてレポートをまとめる。	レポート	レポート	レポート
	7	6					
	9	5	講義③ 「社会人に必要な基礎的なマナーについて」 演習 「レポート③」 職場訪問①	・社会人として基本的な所作法やマナーについて、VTR等を視聴することによって、理解を深める。 ・講義③についてレポートをまとめる。 ・職場での勤務状況について（雇用主との懇談、実務見学等）	レポート 職場訪問・見学	レポート 職場訪問・見学	レポート 職場訪問・見学

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
後期	10	7	講義④ 「社会人にふさわしい服装と身だしなみ」	・職場に応じた服装や身だしなみの必要性について理解させる。			
	11	4	演習 「レポート④」	・講義④についてレポートをまとめる。	レポート	レポート	レポート
	12	4	講義⑤ 「挨拶と言葉遣い」	・挨拶の大切さについて理解させる。また社会人としてふさわしい言葉遣いについても理解させる。			
		6	演習 「レポート⑤」	・講義⑤についてレポートをまとめる。	レポート	レポート	レポート
	1	6	講義⑥ 「社内でのマナー」	・職場にはそれぞれマナーというものが存在し、それを理解したうえで仕事をする事の大切さを理解させる。			
	2	7	演習 「レポート⑥」 職場訪問②	・講義⑥についてレポートをまとめる。 ・職場での勤務状況について	レポート	レポート	レポート
	3	1	まとめ	（雇用主との懇談、実務見学、評価の依頼等）	職場訪問・見学・実務報告書	職場訪問・見学・実務報告書	職場訪問・見学・実務報告書

担当者からのメッセージ（学習方法など） ○各テーマのねらいをしっかりと理解し、勤労を通して多くのことを学んでください。 何事も実践から学ぶことが多いです。壁にぶつかったときはいろいろな人の考えを参考にして、自分の考えをまとめてください。 ○職場訪問を行い、職場での様子などの見学をします。また、雇用先に年度末に実務報告書（評価表）を書いていただき、提出してもらいます。 ○就業日数（時間）が規定の水準に満たない場合は、単位認定を行うことはできません。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	課題研究	学 年	類 型	単 位 数
				3	全員	4
学習の 目 標	生徒の興味・関心等に応じて、工業に関する適切な課題を設定し、主体的かつ協働的に取り組む学習活動を通して、専門的な知識、技術などの深化・総合化を図り、工業に関する課題の解決に取り組むことができるようにする。					
使用教科書	なし			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		レポート、行動観察、作品等成果物			
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技能	工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けることができる。		
		b	思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決することができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとする。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（１～５の５段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	8	1 オリエンテーション	1 課題研究において学習する目標やスタイル、テーマおよび評価基準についてのオリエンテーション ○課題研究の年間計画と評価方法について理解する。	レポート 行動観察	レポート 行動観察	レポート 行動観察
	5	8	2 テーマの設定	2 個人またはグループごとにテーマの設定 ○これまで学んできた知識・技能を活かし、課題を解決するための、研究テーマを思考することができる。 ○自身で考えついたテーマや課題解決のためのアイデア等を適確に表現し、提案することができる。 ○提案された意見等に対して、自分自身でも思考判断し、情報を共有できる。			
		8	3 計画・実行	3 個人またはグループごとに計画・実行	レポート 行動観察 作品等成果物	レポート 行動観察 作品等成果物	レポート 行動観察 作品等成果物

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	6	36	4 ・製作 ・調査 ・研究 ・実験	4 個人またはグループごとに取り組む ○課題研究全般における安全作業について理解する。 ○学ぶ目的を理解し、工業の基礎となる知識や技術に興味・関心を持つとともに、課題研究に主体的に取り組む態度を身につけている。 ○レポートにより、課題研究の目的や内容を捉え、事後にも役立つように思考して判断力を高め、的確な表現力を身につけている。 ○安全作業に主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組む態度を身につけている。 ○研究対象に関する基礎的な知識を理解し、課題を解決するための取り組みができる。 ○問題点を発見し、それに対する解決方法を考えることができる。 ○課題を自ら見いだして設定し、課題解決に対して意欲的に取り組むことができる。 ○研究に必要な装置等の原理を理解し、正しく操作できる。	レポ ー ト	レポ ー ト	レポ ー ト
	7				行 動 観 察	行 動 観 察	行 動 観 察
前 期	9		5 前期中間 まとめ	5 前期の取り組みを振り返り、今後の課題と計画調整をおこなう。 ○研究結果を正しくまとめることができる。 ○問題点を発見し、それに対する解決方法を考えることができる。 ○解決方法をグループでまとめ、提案できる。 ○中間まとめを経て、今後の計画を改善することができる。	作 品 等 成果物	作 品 等 成果物	作 品 等 成果物
		8			レポ ー ト	レポ ー ト	レポ ー ト
					行 動 観 察	行 動 観 察	行 動 観 察
					作 品 等 成果物	作 品 等 成果物	作 品 等 成果物

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	16	6 ・製作 ・調査 ・研究 ・実験	6 個人またはグループごとに取り組む。 ○課題研究全般における安全作業について理解する。 ○学ぶ目的を理解し、工業の基礎となる知識や技術に興味・関心を持つとともに、課題研究に主体的に取り組む態度を身につけている。 ○レポートにより、課題研究の目的や内容を捉え、事後にも役立つように思考して判断力を高め、的確な表現力を身につけている。 ○安全作業に主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組む態度を身につけている。 ○研究対象に関する基礎的な知識を理解し、課題を解決するための取り組みができる。 ○問題点を発見し、それに対する解決方法を考えることができる。 ○課題を自ら見いだして設定し、課題解決に対して意欲的に取り組むことができる。 ○研究に必要な装置等の原理を理解し、正しく操作できる。 テーマ例 【機械類型】 ① 溶接を利用したものづくり ② 旋盤・フライス盤・マシニングセンタを利用したものづくり ③ 砂型鑄造法による作品製作など 【電気類型】 ① 様々な資格取得に向けた取り組み ② シーケンス技術(無接点リレー) ③ 電子情報技術 ④ 電気工事(ものづくり大会へ向けて)など	レポ ー ト	レポ ー ト	レポ ー ト
	11	16			行 動 観 察	行 動 観 察	行 動 観 察
	12	8			作 品 等 成果物	作 品 等 成果物	
	1	12					

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	2	12	7 資料作成 (まとめ) 発表	7 ここまでの取り組みの成果などをまとめ、発表用資料の作成をおこない、研究発表を行う。 ○研究結果を正しくまとめることができる。 ○研究発表に必要な機器の使用方法を理解し、正しく操作できる。 ○研究発表において、相互評価を行う ○研究結果を正しく理解し、説明できる。 ○解決方法をグループでまとめ、提案できる。 ○ものづくりを通じて、社会を支え産業の発展を担うことができるように、主体的・協働的に学習に取り組んでいる。	レポ ー ト	レポ ー ト	レポ ー ト
	3	8			行 動 観 察	行 動 観 察	行 動 観 察
					作 品 等 成果物	作 品 等 成果物	

担当者からのメッセージ（学習方法など）
実習服・実習靴・実習帽は必ず着用のこと。また、安全に関わる諸注意は厳守してください。 レポートの作成が有りますので、筆記具を用意すること。 1・2年生で学んだ基礎・基本を大事にし、目標を設定したことに対して常に関心を持って取り組むこと。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	通信技術	学 年	類 型	単 位 数
				3	全員	2
学習の 目標	・ 通信技術に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・ 習得した知識と技術を実際に活用できるようにする。					
使用教科書	通信技術（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ノート、プリント、小テスト、行動観察、定期考査等			
	評価 観点の 趣 旨	a	知識・技能	有線・無線・画像通信に関する知識、入出力機器に関する基礎知識を身につけている。通信関連法規の概要を理解している。基本的な回路の製作や信号波形の観測などを正しく行う知識と技術を修得している。		
		b	思考・判断・表現	通信技術について論理的な考え方ができる。基礎知識を正確に理解し、発展的な考え方ができる。通信に利用されている技術を正確に理解し、発表したり報告書を作成したりできる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	通信に関連する技術に興味・関心をもっている。情報の加工・伝送に関する学習に取り組み、活用する意欲をもっている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	7	第1章 有線通信	・コンピュータネットワークのしくみと標準化されたプロトコルについて理解する。 ・LANの構成やLAN相互の接続について理解する。 ・IPパケットの伝送やインターネットによるWeb閲覧のしくみについて理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
			1. コンピュータネットワーク				
	5	3	2. 電話機	・電話機の構造や機能を理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		2	3. IP電話網と交換	・電話網の基本的な構成について理解する。 ・A-D変換とD-A変換について理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		2	4. 光信号の多重化	・多重化の必要性和その方法について理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
後期	6	3	5. 拠点間回線とアクセス回線	・拠点間回線の種類とその特徴について理解する。 ・アクセス回線の種類とその用途について理解する。	ノート プリント 小テスト 定期考査等	ノート プリント 小テスト 定期考査等	プリント 行動観察

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	7 9	2	5. オンラインシステムによるデータ通信	・データ通信システムの構成と、伝送制御手順や伝送方式について理解する。 ・ディジタル変調方式のしくみについて理解する。 ・変調速度やデータ信号速度の計算をすることができる。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		2	6. 有線通信の伝送路	・通信ケーブルの種類について理解する。 ・電気通信回線における、相対レベルと絶対レベルの伝送量の計算をすることができる。 ・通信ケーブルを接続する技術について理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		3	第2章 無線通信 1. 無線通信のしくみ	・無線通信の特徴を理解する。 ・周波数、波長、電界強度など電波についての基本的知識を習得させる。 ・電離層の働きや電波障害について理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		2	2. アンテナ	・半波長ダイポールアンテナの原理と構造を理解する。 ・アンテナの種類と利得や指向性などの特性について理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		4	3. 無線機器	・AM送受信機の基本構成を理解する。 ・スーパーヘテロダイン受信機の構成と回路動作を理解する。 ・FM送受信機の基本構成を理解する。 ・SSB波の発生に利用する平衡変調器の働きを理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		3	4. 移動通信	・携帯電話システムの概要について理解する。 ・多元接続の技術を理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		3	5. 衛星を利用した通信システム	・通信衛星の軌道、衛星通信の通信方式、衛星放送システムなどについて理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
					定期考査等	定期考査等	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	3	6. 無線通信の 応用	・レーダなど無線を応用したシステムの概要を理解する。 ・無線ネットワークの種類やそれぞれの特徴について理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
	11	3	第3章 画像通信 1. 画像通信の 基礎	・画像の分解と組立てにおける画素, 走査について理解する。 ・ファクシミリの基本構成とファクシミリの伝送方式について理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		3	2. テレビジョン 技術	・映像(動画)のつくり方を理解する。 ・表示装置の種類と特徴について理解する。 ・テレビジョン信号の構成, テレビジョン受信機の回路構成などについて理解する。 ・ディジタル放送に利用されている多重化, 変調方式などについて理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
	12	8	3. マルチメディアの圧縮 技術	・マルチメディアデータについて理解する。 ・情報源である音や光の性質を学習させ, 人の聴覚や視覚について理解する。 ・マルチメディア情報の圧縮技術を理解する。 ・インターネットを利用した各種データの伝送について理解する。	ノート プリント 小テスト 定期考査等	ノート プリント 小テスト 定期考査等	プリント 行動観察
	1	5	4. マルチメディアのセキュ リティ技術	・暗号の重要性と各種の暗号方式について理解する。 ・インターネットなどにおいて, 暗号がどのように応用されているかについて理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		3	第4章 通信装置の入 出力機器 1. 情報の入出 力機器	・マイクロホンやスピーカの構造, 動作原理, 特性などを理解する。 ・画像信号や画像データの入出力機器について, その種類や動作原理などを理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	2	2	2. 情 報 の 記 録・再生装 置	・情報記録の方式と原理について理解する。 ・情報記録と再生装置の種類と特徴について理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		1	第5章 通信関連法規 1. 通信と法規	・通信法規の意義と体系を理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
	3	2	2. 通信に関連 する法規	・有線電気通信法とそれに関連した法規の概要を理解する。 ・電波法とそれに関連した法規の概要を理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		2	3. 電気通信事 業に関連す る法規	・電気通信事業法とそれに関連した法規の概要を理解する。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	プリント 行動観察
		2	4. その他の法 規	・セキュリティに関連する法規の概要を理解する。	ノート プリント 小テスト 定期考査等	ノート プリント 小テスト 定期考査等	プリント 行動観察

担当者からのメッセージ（学習方法など）
<授業の進め方> 教科書を基本に、プリントを用いて授業を展開します。 <持ち物> 教科書、ファイル（プリント）、筆記用具、タブレット <アドバイス> 計算よりも覚えることが多い科目になります。無線従事者資格を受けるために必要な科目ですので、落とさないように頑張って単位を取ってください。 <その他> 状況に応じて、学習項目にかかる指導時間数や内容については変更することがあります。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	製図 (機械類型)	学 年 3	類 型 機械	単 位 数 2
学習の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を育成することを目指す。					
使用教科書	製図（実教出版 707）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ワークシート、課題、振り返りシート、行動観察、定期考査 （下記、評価シートにおいてそれぞれ、ワ・課・振・行・定）			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	製図に関する事象について、基本的な概念や基礎的な知識を理解し、読図・作図の技能を身につけている。		
		b	思考・判断・表現	製図に関する事象について、論理的に考えたり、分析したりして、総合的に判断できる。また、その過程や結果および考え方を的確に表現できる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	製図に関する事象について関心をもち、主体的・協働的に取り組む態度を身につけようとする。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容 (単元の目標・評価基準等)	評価方法		
					a	b	c
前期	4	4	ドラフター・製図用具の使い方	○ドラフターをはじめとする製図用具の特徴と用途について理解し、使い方を習得している。 ○ドラフターを正しく使用することができる。 ○図面を作成する際に、どの製図用具を用いればよいか選択することができる。 ○製図用具に関心を持ち、粘り強く学習に取り組もうとする。	ワ	振・行	振・行
	5	4	手がき図面のかき方	○基本的な図面のかき方を理解し、かき方を習得している。 ○製図では、線の形状や太さを使い分けていることを理解できる。 ○基礎的な図面のかき方に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 ○寸法も含めて、図面を正しく読むことができる。 ○図面に用いる文字・記号に関心がある。	ワ	振・行	振・行
	6	3 4	ボルト・ナット・小ねじ・止めねじ・座金	○図面をかく順序を理解し、かき方を習得している。 ○ボルト・ナットなどの種類や呼び方などに関する知識を身につけ、六角ボルト・六角ナットの略画法を用いた作図の技能を習得している。 ○小ねじ・止めねじ・座金の表し方を理解し、ざぐりの寸法記入方法を習得している。 ○六角ボルト・六角ナットの呼びかたをみて、その内容を考察できる。 ○ボルト・ナットなどの締結用機械要素の製図に関心をもっている。	ワ・課・定	振・課・定	振・行

学期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	6	4	軸受と軸継手の製図	○軸受と軸継手の種類や呼び方を理解している。 ○JISで規定されたフランジ形たわみ軸継手の形状・寸法を理解している。 ○フランジ形たわみ軸継手の呼び方をみて、その内容を考察できる。 ○軸受と軸継手の製図に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	ワ・課	振・課	振・行
	7	2					
		6	歯車の製図	○歯車の種類と歯の各部の名称や大きさなどに関する知識が身についている。 ○平歯車の図面を読むことができ、製図の技能を習得している。 ○簡略図示された平歯車の図例と要目表をみて、その内容を考察できる。 ○歯車などの動力伝達用機械要素の製図に関心をもち、粘り強く学習に取り組もうとする。	ワ・課	振・課	振・行
		3	溶接継手	○溶接記号が示す溶接方法や仕上げ方法について理解し、溶接記号の表示を習得している。 ○溶接記号の表示をみて、その内容を考察できる。 ○溶接により接合された溶接継手に関心がある。	ワ・課	振・課	振・行
	9	5	管・管継手とバルブ・コック	○液体や気体などの流体を輸送する管や管継手について理解している。 ○玉形弁の図面を読むことができ、製図の技能を習得している。 ○バルブの呼びかたをみて、その内容を考察できる。 ○流体を輸送するのに用いられる管や管継手の製図に関心をもっている。	ワ・課・定	振・課・定	振・行

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	6	スケッチ図	○スケッチ図の必要性や作成方法について理解している。 ○計測器具を用いて、機械部品のスケッチ図を作ることができる。 ○スケッチ図のつくりかたについて考察できる。 ○スケッチ図のつくりかたに関心がある。	ワ・課	振・課	振・行
	11	5	設計製図	○フランジ形たわみ軸継手の設計の手順を理解している。 ○フランジ形たわみ軸継手の図面を読むことができ、製図の技能を習得している。 ○フランジ形たわみ軸継手の設計製図について考察できる。 ○機械や機械部品の設計製図に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	ワ・課	振・課	振・行
		3	C A D シ ス テ ム	○CADシステムの概要・構成・規格に関する知識を身につけ、CADシステムの機能を習得している。 ○CADシステムの概要・構成・機能などについて考察できる。 ○CADシステムは手がき製図と比較してどのような利点があるか理解し、意欲的に学習に取り組もうとする。	ワ	振	振・行
	12	6	二次元C A D	○二次元CADの特徴を理解し、作図の技能を習得している。 ○二次元CAD作図について考察できる。 ○二次元CADによる作図に関心がある。	ワ・課・定	振・課・定	振・行

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	1	5	三次元CAD	○二次元CADと三次元CADについて、その特徴を比較し、理解している。 ○三次元CADによる作図の技能を習得している。 ○二次元CADと三次元CADについて、その特徴を比較し、考察できる。 ○三次元CADによる作図に関心もち、意欲的に学習に取り組もうとする。	ワ・課	振・課	振・行
	2	6	CADシステムの利用	○CADシステムの利用分野などに関する知識を身につけ、その利用例を習得している。 ○CADシステムの利用分野について調査し、報告書にまとめたり、発表したりできる。 ○さまざまな分野で利用されているCADシステムについて関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	課	振・課	振・行
	3	4	1年間のまとめ	○基本的な図面のかきかたを理解し、かき方を習得している。 ○製図用具の特徴と用途について理解し、正しい使い方を習得している。 ○CADシステムの概要・構成・規格に関する知識を身につけ、CADシステムの機能を習得している。 ○CADシステムの利用分野などに関する知識を身につけ、その利用例を習得している。 ○製図に関心をもち、粘り強く学習に取り組もうとしている。	ワ・課・定	振・課・定	振・行

担当者からのメッセージ（学習方法など） ＜授業の進め方＞ 教科書、ワークシート、課題作成を中心に授業を展開します。 ＜持ち物＞ 教科書、ファイル、筆記用具、タブレット ＜アドバイス＞ 課題図面作成、CADによる図面作成などを多く取り入れます。欠席すると作成が遅れてしまいますので欠席しないように、また遅れている場合は放置せずに相談しましょう。 ＜その他＞ 生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間数や内容については変更することがあります。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	機械工作	学 年	類 型	単 位 数
				3	機械	1
学習の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、機械材料の加工や工作に必要な資質・能力を育成することを目指す。					
使用教科書	機械工作 2（実教出版 3 1 6）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ノート、プリント、小テスト、振り返りシート、行動観察、定期考査			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	基礎的な知識と技術を理解し、工業の発展と調和のとれたありかたや現代社会における工業の意義や役割を理解している。また、ものづくりでのいろいろな場面で問題解決を試みることができるように相互に関連させて理解している。		
		b	思考・判断・表現	機械工作に関する諸問題の解決をめざして自ら思考を深め、基礎的基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。また、その成果を適切に表現することができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	身近な製品に関心を払うなどして、機械工作に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする創造的実践的な態度を身に付けている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	2	第7章 切削加工 1節. 切削加工と切削工具	○切削加工のあらましについて理解している。 ○切削加工および切削工具の各部名称を理解している。 ○材料の被削性を利用する工作方法と、可塑性、展延性を利用した工作方法との違いを理解し、目的に合わせて適切な加工方法を選択することが出来る。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	行動観察 振り返りシート
	5 6	4 1	2節. 工作機械と切削工具	○旋盤、フライス盤、形削り盤、ボール盤について、使用する切削工具や加工の特徴を理解している。 ○目的に合わせて、適切な加工方法を選択することが出来る。	ノート プリント 小テスト 前期中間考査	ノート プリント 小テスト 前期中間考査	行動観察 振り返りシート
	7	3 1	3節. 切削工具	○切削工具に求められる条件について理解している。 ○各切削工具材料の特徴を理解している。 ○目的に合わせて、適切な切削工具を選択することが出来る。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	行動観察 振り返りシート
	9	2 3	4節. 切削条件の選定	○切削条件の選定について理解している。 ○切削速度の求め方と切削条件との関係を理解している。 ○送り量と送り速度の求め方について理解している。 ○切込みと仕上げ面の関係について理解している。 ○与えられた切削条件に対して、適切な主軸の回転速度を計算することが出来る。	ノート プリント 小テスト 前期末考査	ノート プリント 小テスト 前期末考査	行動観察 振り返りシート

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	3	第5節. 切削理論	○切りくずの形態と仕上げ面の関係について理解している。			
	11	4		○切削熱が切削に与える影響について理解している。 ○各材料の被削性について理解している。 ○構成刃先とびびり振動について理解し、これらの切削現象の生じにくい加工条件を選択することが出来る。	ノート	ノート	行動観察
				○加工における切削油剤の影響を理解し、目的に合わせて適切な切削油剤を選択することが出来る。 ○工具寿命について理解し、その判定を適切にすることが出来る。	プリント 小テスト	プリント 小テスト	振り返りシート
	12	3	第6節. 工作機械の構成と駆動装置	○工作機械の構成について理解している。 ○工作機械の駆動装置について理解している。	ノート	ノート	
	1	3			プリント 小テスト 後期 中間 考査	プリント 小テスト 後期 中間 考査	行動観察 振り返りシート
	2	4		○中ぐり盤、ブリーチ盤、歯切り盤について、工作機械の特徴や加工内容について理解している。 ○目的に合わせて、適切な加工方法を選択することが出来る。	ノート	ノート	
	3	2	第7節. その他の切削工作機械		プリント 小テスト 後期 期末 考査	プリント 小テスト 後期 期末 考査	行動観察 振り返りシート

担当者からのメッセージ（学習方法など）
<授業の進め方> 教科書を基本に授業を展開します。 <持ち物> 教科書、ノート、筆記用具、タブレット <アドバイス> 切削加工について、工作機械や切削理論を学びます。これまでの実習などで経験している事もあるので、今まで学んだことを思い出しながら、授業をしっかりと聞いて学習してください。分からないことがあれば放置せずに質問してください。 <その他> 生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間数や内容については変更することがあります。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業		科 目	機械設計	学 年	類 型	単 位 数
					3	機械	1
学習の 目 標	機械の概念を理解させ、設計するための基礎となる力学・材料力学・機構学の基礎的な事項を理解させる。 機械の構成と基本的な機械要素・装置などについての基礎的な知識と関連する技術を身に付けさせる。						
使用教科書	機械設計 1 （実教出版）				副教材等	なし	
評 価	評 価 法			プリント、振り返りシート、定期考査、行動観察			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	機械設計の各分野について、基礎的な知識と技術を体系的・系統的に身に付け、社会環境に適した機械設計の意義や役割を理解している。			
		b	思考・判断・表現	機械設計に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた思考・判断力に基づいて、合理的かつ創造的に課題について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	機械設計に関する諸事象について関心をもち、社会の改善・向上を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	2	機械のしくみ	○ 機械の定義を理解し、機械がさまざまな機構や要素を組み合わせでできていることを理解している。 ○ 機械の定義・なりたち・動きなどを考察し、機械か否かを総合的に判断している。 ○ 機械に関心をもち、機械の定義、機械のしくみ、機械の機構、機械要素を探究しようとしている。 ○ 機械設計に関心をもち、設計の進めかたやよい機械の条件を探究し、設計の基本を理解し、意欲的に取り組もうとしている。	プリント	プリント	行動観察
	5	4	機械設計		振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート
	6				前期中間考査	前期中間考査	
		2	機械に働く力	○ 作図や計算で力を合成・分解する方法、計算によって力のモーメント・偶力・重心を求める方法を理解し、結果を導き出すことができる。 ○ 直線運動や回転運動の速度・加速度の計算法を理解している。 ○ 力を合成・分解する方法、力の働きやつり合い、重心の求めかたの流れを考えることができ、適切に表現する力を身に付けている。 ○ 運動によってどのような力が作用するか、力によって起きる運動を探究し、理解しようとしている。	プリント	プリント	行動観察
		2	運動		振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート
	7	3	力と運動の法則	○ 仕事の概念や原理、エネルギーと動力について理解し、それらの計算法を身に付けている。 ○ 運動と力の関係を運動の法則を使って探究し、計算過程を説明する力を身に付けている。 ○ 機械の仕事や動力に関心をもち、エネルギーと生活のかかわりや仕事の原理を探究し、理解しようとしている。	前期末考査	前期末考査	
	9	3	仕事と動力				

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
後期	10	3	摩擦と機械の効率	○ 機械の効率の概念と現状を理解している。 ○ 摩擦が機械に及ぼす影響について探求し、機械の効率が摩擦に左右されることを表現する力を身に付けている。 ○ 材料に加わる荷重を正しく分類することができ、関連する用語を正しく理解している。 ○ 荷重を作用のしかたや加わる速さによって分類する力を身に付けている。	プリント 振り返りシート 後期中間考査	プリント 振り返りシート 後期中間考査	行動観察 振り返りシート
	11	4	材料に加わる荷重				
	12	3	引張・圧縮荷重 せん断荷重	○ 応力を適切な単位で表現でき、応力、ひずみ、縦弾性係数の関係、応力-ひずみ線図を理解している。 ○ 荷重と応力の違い、変形量とひずみの違いを理解し、応力とひずみの関係を知ろうとする意欲があり、縦弾性係数を理解しようとしている。 ○ せん断応力、せん断ひずみ、横弾性係数の関係を理解し、横弾性係数と縦弾性係数の違いを理解している。	プリント 振り返りシート 後期期末考査	プリント 振り返りシート 後期期末考査	行動観察 振り返りシート
	1						
	2	3	温度変化による影響				
	3	2	材料の破壊				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<持ち物>

教科書、ファイル、筆記用具、タブレット

<アドバイス>

授業では力の働きや機械のしくみ等を学びます。教科書を基本に進めていきます。復習をしっかりとて、基本事項を学んでください。

<その他>

学習項目は前後することや、内容を変更することがあります。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	製図 (電気類型)	学 年	類 型	単 位 数
				3	電気	1
学習の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を育成することを目指す。					
使用教科書	製図（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ワークシート、定期考査、小テスト、行動観察、振り返りシート			
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技能	製図に関する事象について、基本的な概念や基礎的な知識を理解し、読図・作図の技能を身につけている。		
		b	思考・判断・表現	製図に関する事象について、論理的に考えたり、分析したりして、総合的に判断できる。また、その過程や結果および考え方を的確に表現できる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	製図に関する事象について関心をもち、主体的・協働的に取り組む態度を身につけようとする。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	3	単線図・複線図	○単純な回路の単線図を読み取りどんな回路になるか学習する。 ○電気工事配線の単線図から複線図に素早く描くことができる。 ○わたり線のある回路の特徴を学習し単線図から効率よく実態配線に即した複線図を描くことができる。 ○パイロットランプのある回路の特徴を学習し、配線により、常時点灯、異時点滅、同時点滅の回路を判断し、複線図を描くことができる。 ○三路スイッチのある回路の特徴を学習し、どこで利用できるか理解し、複線図を描くことができる。 ○四路スイッチのある回路など、回路の特徴を学習し、どこで利用できるか理解し、複線図を描くことができる。	ワークシート	小テスト	行動観察
	5	4			小テスト		振り返りシート
	6	4					
	7	3	屋内配線図	○実際に配線作業ができるような、複線図を描くことができる。 ○図記号から実際に使用する電気機器を把握できる ○電灯・電力設備の単線図の複線化の方法について学習する ○屋内配線図より実際に配線するための図に直すことができる ○電灯・電力設備の配線図より、実際のケーブル寸法及び材料の選別をすることができる ○実際の配線工事をする場合の材料やケーブル寸法を考える必要があるのを理解することができる。	ワークシート	小テスト	行動観察
	9	3			小テスト 前期期末考査	前期期末考査	振り返りシート

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	4	C A D製図	○C A Dは、コンピュータを利用した作図システムであり、その概要やハードウェア、ソフトウェアについて理解することができる。 ○C A Dシステムに関する規格や用語および、C A Dシステムの機能を理解することができる。 ○C A Dシステムを利用した二次元図面の作図手順などについて、理解することができる。	ワークシート	小テスト	行動観察
	11	4					
	12	3			小テスト 後期中間考査	後期中間考査	振り返りシート
	1	3	屋内配線の設計	○低圧屋内配線に使用される電圧方式と電圧を理解する ○内線規程より分岐回路数が計算できるように学習する ○使用機器の定格電流より幹線の太さ及び分岐回路の電線の太さを計算できるように学習する ○屋内配線の負荷の想定ができる ○木造住宅の屋内配線設計ができる	ワークシート	小テスト	行動観察
	2	3			小テスト	後期期末考査	振り返りシート
	3	1			後期期末考査		

担当者からのメッセージ（学習方法など）
<授業の進め方> 教科書と、授業で配布するワークシートを元に授業を展開します。 <持ち物> 教科書、ファイル、筆記用具、タブレット <アドバイス> 配線図をかくためには、繰り返し練習が必要になります。部品の記号や配線方法方の学習、簡単な配線から少しずつ、複雑な配線の図面もかくことが出来るように練習をするようにしてください。また、自ら学ぶということを忘れずに積極的に技術の習得に努めてください。 <その他> 生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間や内容については変更することがあります。

令和6年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	電気回路	学 年	類 型	単 位 数
				3	電気	3
学習の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、電気現象を量的に取り扱うことに必要な資質・能力を育成することを目指す。					
使用教科書	電気回路 1、電気回路 2（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ノート、プリント、小テスト、行動観察、振り返りシート、定期考査等			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	現代社気に沿った、電気現象や電流、電圧、抵抗などの関係を数的に学習する。 電氣的諸量の相互について原理・法則を理解し、知識と理解を身につけている。		
		b	思考・判断・表現	現代社会に不可欠な電気について、知識や理解力、考え方を身につける。また、 導き出した考え方を的確に表現することができる。		
		c	主体的に学習に 取り組む態度	現代社気において電氣的变化や現象が数式により表現できることに関心を持ち 電気の仕組みに対して興味を持ち意欲的に学習に取り組んでいる。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3 段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	9	第5章 交流回路 1 交流の発生と表し方 ・正弦波交流 ・角周波数 ・交流の表し方	○時間とともに大きさや向きが変化する電氣の流れを正弦波交流を主として量的にどのように取り扱うか理解できている。	ノート	ノート	行動観察
				○原理や起電力を表すためのコイルの回転角を弧度法を用いて、回転速度と角周波数の関係について理解している。	プリント	プリント	
				○時間とともに変化する交流の起電力や電流の特性を理解し、瞬時値、最大値、平均値、実効値などの値を理解している。	小テスト	小テスト	振り返りシート
	5	12	2 交流回路の電流・電圧 ・位相差とベクトル ・R、L、C単独の回路 ・直列回路	○電圧や電流の取り扱いに必要な、大きさや時間、位相差を考え、ベクトルの性質を利用し、正弦波の合成などについて理解している。			
				○抵抗、インダクタンス、静電容量などの働きと、電流の大きさや電圧、電流の位相差について理解している。			
				○抵抗器やインダクタンスのコイル、静電容量のコンデンサを直列に接続した回路に電圧を加えたときに流れる電流、位相、インピーダンス、インピーダンス角や直列共振などについて理解している。			
	6	12	・並列回路	○抵抗器やインダクタンスのコイル、静電容量のコンデンサを並列に接続した回路に電圧を加えたときに流れる電流、位相、インピーダンス、インピーダンス角や並列共振などについて理解している。			

前 期	7	9	3 交流回路の電力 ・ 交流の電力と力率	○RLC直列回路の具体例をあげ、交流回路の電力について理解している。	前期中間 考査	前期中間 考査	行動観察 振り返り シート
			・ 皮相電力, 有効電力, 無効電力	○交流の電力に関連した、皮相電力, 有効電力, 無効電力について調べ、理解をする。			
			第7章 三相交流 1 三相交流の基礎 ・ 三相交流	○三相交流の発生や意味について理解している。			
			・ 三相交流の表し方	○三相交流の波形や瞬時値やベクトル, 記号法による表し方を理解している。			
			・ 三相交流起電力の瞬時値の和	○三相交流の瞬時値の和がつねに0であることを、波形やベクトル図を用いて確かめることができる。			
	9	11	・ 三相交流回路の結線	○三相交流の結線方法や取り扱いなどについて理解している。	小テスト	小テスト	
			2 三相交流回路 ・ Y-Y 回路	○発生させた三相交流回路の接続方法について、基本的な接続方法について理解している。			
			・ Δ - Δ回路	○Δ - Δ回路の電圧と電流および位相関係について理解している。			
			・ Δ - Y 回路と Y-Δ回路	○Δ - Y 回路と Y-Δ回路の回路計算を通して、線間電圧と相電圧の関係や線間電流と相電流の関係について理解している。			
			・ 負荷の Y 結線と Δ 結線の換算	○電源と負荷の結線方法が異なる場合の、負荷側の電圧や電流、位相について求めることができる。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	12	3 三相電力 ・三相電力の表 し方	○三相回路における電力である三相電力について、計算 方法や測定方法を理解している。	ノート	ノート	行動観察
			・三相負荷と三 相電力	○Y結線負荷および△結線負荷の三相電力の計算およ び、測定方法について理解する	プリント	プリント	
			4 回転磁界 ・三相交流によ る回転磁界 ・二相交流によ る回転磁界	○誘導電動機や同期電動機は回転磁界によって回転す る。回転磁界とは、どのようなものであるかを理解してい る。	小テスト	小テスト	
	11	12	第8章 電気計測 1 測定量の取 り扱い ・単位と標準器	○測定量の単位とその基準である標準器について理解 し、測定値の扱いを学び、実際に計算することができる。	小テスト	小テスト	振り返り シート
			・測定値と誤差	○電流や電圧、抵抗などの電氣的諸量を実際に測定する ために、計器の使い方やメモリの読み取り方などについ て、正しい方法を身につけている。			
			2 電気計器の 原理と構造 ・直動式指示電 気計器	○電気計器の基本的な動作原理を理解し、正しい計器の 取り扱い方やアナログ・デジタル計器の特徴を理解して いる。 ○直動式指示電気計器の動作原理や構造などの基本的 な事項について理解している。			
			・永久磁石可動 コイル形計 器	○永久磁石可動コイル型計器の動作原理・構造を用いた 電圧計と電流計などについて理解している。			
			・可動鉄片形計 器	○可動鉄片形計器の動作原理・構造を用いた電圧計と 電流計などについて理解している。			
			・電流力形計器	○電流力形計器の動作原理・構造について理解してい る。			
			・デジタル計 器	○デジタル計器の基本構成と特徴などについて理解し ている。			
					後期中間 考查	後期中間 考查	
	12	9					

後 期	1	9	3 基礎量の測定 ・ 測定の基礎	○各種の電気量を測定するために基本的な知識、および測定器や測定回路などの構成や取り扱いについて理解している。 ○直接測定と間接測定、偏位法と零位法について理解している。	ノート	ノート	行動観察 振り返りシート
	2	7	・ 電流・電圧の測定	○直動式指示電気計器を利用して、電流や電圧を測定するが、条件によって測定できないときにどのような測定器を使用すればいいかを理解している	プリント	プリント	
			・ 電力と電力量の測定	○電流計形計器の原理・構造を知り、電力計を理解する。また、各家庭の使用されている電力量計についても理解している。	小テスト	小テスト	
			・ 抵抗の測定	○いろいろな種類の抵抗について、その抵抗値を測定する方法を理解している。	後期期末 考查	後期期末 考查	
			・ 周波数と力率の測定	○周波数計、力率計などについて理解している。			
			・ インピーダンスの測定	○インピーダンスの測定をするための方法を理解している。			
	3	3	・ 波形の観測	○時間とともに変化していく電気量を観測するための装置について理解している。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）	
<授業の進め方> 教科書、プリントを基本に進めます。 <持ち物> 教科書、ノート、筆記用具、タブレット、ファイル <アドバイス> 一年生、二年生に学んだ直流を踏まえ、交流の色々な知識を学び理解し、電気計測の知識、電力量の測定・計算を学ぶ学習なので、授業を聞き、板書されたことを書き写し、まとめ、学んだ内容を確認しながら各単元の復習をしてください。 <その他> 生徒の能力・状況に応じて、学習項目にかかる指導時間数や内容を変更する場合があります。	